草の上の昼食（1959）

LE DEJEUNER SUR L'HERBE

メディア 映画
ジャンル ドラマ　コメディ
製作国　フランス
色彩　Color
時間　93分
初公開日 1963/03/12
公開情報 ヘラルド

【解説】

Ｊ・ルノワールの喜劇というだけで、無条件の愉しさが約束されたようなものだが、この作品は、多少複雑な設定が話の進むうちどんどんシンプルになっていき、ちょうど作中にあるヒロインの泉での入浴シーンのように、飾らないすっぽんぽんの映画になる。最高だ。人工授精で純良な血統を培う方を普及させた生物学者エチアンヌ・アレクシ博士は、生殖のための愛の行為は抑制されるべきとの方針で、欧州連合大統領選にうって出、その支持基盤を固めるため、ドイツのガール・スカウト組織者シャルロッテ伯令嬢との政略婚も予定されていた。一方、素朴な農家の娘ネネットは、兄夫婦の様子を見て、“男で苦労するのは真っ平”と、近くの別荘の博士を訪ね、自らを実験台にしてもらおうとして女中になり、彼と令嬢のマスコミ向け昼食会にかり出される。それは森に出ての“草上の昼食”。ただし、卓や椅子を並べての無粋なものだった。そこへ村の名物爺さんのガスパールが山羊のカブリを連れ、現われた。取り出した笛を吹くと暴風が吹き荒れ、それが過ぎるとみんな抑圧のたがが外れて、博士はネネットと、共に若者たちのキャンプに誘われ、いつしか草むらで愛し合う仲に……。それをただ、風そよぐ草原と、漂う水藻、花にとまる虫などで表わす、この光と官能の印象派画家の息子の、父を上回ろうかという豊かな表現力には溜息が出る。二人はネネットの実家（父オーギュストの旧宅を使用）での愛の隠遁生活を送るのだが、博士はいつしかまた表舞台に引っぱり出される。ネネットは博士の子を妊娠していたが、それを告げることなく、出産費用のため博士と令嬢との挙式の手伝いをしている所を、彼に発見された。そして、式は急拠、この二人のものに変わってしまうのだった。Ｃ・ルーベルのネネットの健康なお色気はちきれんばかり。だが、主役は南仏プロヴァンスの風光明媚でありましょう。

【クレジット】

監督	ジャン・ルノワール	Jean Renoir
脚本	ジャン・ルノワール	Jean Renoir
撮影	ジョルジュ・ルクレール	Georges Leclerc
音楽	ジョセフ・コズマ	Joseph Kosma
出演	ポール・ムーリス	Paul Meurisse
	カトリーヌ・ルヴェル	Catherine Rouvel
	フェルナン・サルドゥ	Fernand Sardou
	ジャクリーヌ・モラーヌ	
	ポーレット・デュボスト	Paulette Dubost
	シャルル・ブラヴェット	Charles Blavett

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。　Copyright (C) 2024 Stingray. All Rights Reserved.